



このマークを見たら、そこは九州自然歩道です。

# 九州を巡る 長距離自然歩道

## 九州自然歩道の始まり

九州を歩く3,000kmの長距離自然歩道をご存じですか。『アドベンチャーシリーズ』“ロングトレイル”といった言葉が広がる以前、1980年に九州自然歩道というナショナルロングトレイルが開通しました。北の起点は、福岡県北九州市の皿倉山。英彦山で西ルートと東ルートと分かれ、鹿児島県の南大隅町佐多岬で合流する、九州を円をつなぐ道です。



福島 優 (ふくしま ゆう)

九州自然歩道フォーラム事務局長。1990年東京生まれ。大学時代に九州7県を巡る歩き旅の中で、九州自然歩道に出会い、活動に参画。歩くことを通した九州の魅力発見に取り組む。山でご飯をつくる“キッチンハイク九州”を主宰し、歩くことに付加価値を足して提案している。



高度経済成長期、大規模開発が進む中、1969年に厚生省（現・厚生労働省）が長距離自然歩道構想を提唱。1973年に全線開通した東海自然歩道に続き、1980年に九州自然歩道が開通しました。開発に相対する取り組みとしての東海自然歩道の一方、九州自然歩道は、九州・山口経済連合会（現・九州経済連合会）が提唱し観光の側面も持ち合わせたナショナル・ロングトレイルが完成しました。当時は、自治体も民間企業も盛り上がりを見せていましたが、年数の経過に伴い、歩道の看板や施設の老朽化、新規道路による分断、自然災害等により、歩道の魅力が減少、認知度も低下する負のスパイラルへと入ってしまいました。しかし、九州

自然歩道の魅力は、“地域をつないでいること”。今まで往復のみだった道のりも、折り返していた先の地域へ行くことができます。どんな道、町、自然、文化、歴史が待ち受けているのか、ワクワクしながら歩むことができるはずです。

そんな時代から再び歩く旅に着目され始めた近年、民間団体などが集まり、“今のままの九州自然歩道ではもったいない！”という思いから九州自然歩道フォーラムが立ち上がりました。始まりは、2011年に九州地方環境事務所国立公園課が呼びかけた「九州ロングトレイルミーティング」です。九州各地のアウトフィッターたちが集まり、信越トレイルの取り組みを行っていた加藤則芳氏がゲストで来られ、アメリカのパラチアントレイルも含めた話題提供をしていただきました。その後、参加者の有志が集まり、意見交換やイベントなどを通して、2012年8月1日「九州自然歩道フォーラム」を設立。自然歩道の維持管理・整備は、環境省や各県が行ってくれています。それら整備し



南外輪山から見る阿蘇五岳

てくれた歩道の魅力を伝え、利活用の促進に取り組んでいます。今年度は特に、九州自然歩道の40周年記念シンポジウムを九州地方環境事務所国立公園課と共催し、これまでの歴史と、今後の歩く旅の拡がり、九州自然歩道フォーラムの目標をお話しさせていただきました。

九州は自然と里との距離が近く、トレイルを歩く中で地域の営みを感じやすいのが特徴です。そして温泉が多いのも九州の魅力。雲仙温泉街や指宿温泉、長湯温泉など、おすすめの温泉地を通ります。里をつなぐ山を越えて、次の里へ行き、温泉に入って翌日また山へ。地域に根ざした歩く旅が自然歩道の醍醐味です。

## 50年先の未来を見据えて

そしてさらに、今まで一緒にできた皆さまのおかげで、令和3年度自然歩道関係功労者表彰を受賞しました。（維持管理を行ってくれている自治体の手が届いていない）利用情報の提供、一体的

な九州自然歩道のPRなどを9年間活動してきた取り組みが少しずつ実り始め、今回の受賞へとつながったと思っています。が、しかし道のりはまだまだ始まったばかりです。通行が難しいところや危険を伴うところ、適切な情報発信ができていないなど、課題も散見されます。それらのことを解決していくためには、九州自然歩道フォーラム単体では到底成し遂げられないものばかりです。管理者である行政機関と協働し、各地域で活動している団体や企業、ガイドさんたちとともに九州自然歩道の活用を行っていきます。特に、50周年に向けた希望として、全線の見直しを提言しています。40年前にできた歩道は、現在では通りづらい・魅力の伝わりにくいコースも見受けられます。そのため、50周年である9年後までに九州各県のコースを見直して、これからの50年、100年に適した磨き上げを通して、新しい九州自然歩道を作り、地域を巡るきっかけづくりを行っていきます。



youtube：九州自然歩道の40周年記念シンポジウム